

お客様各位

■□=====

株式会社 京浜予防医学研究所

■□ KMLメールニュース □■ ◆◆ VOL.33 ◆◆

=====□■

株式会社 京浜予防医学研究所 よりお知らせ致します！

2010年 9月 18日発行

□■ http://www.kml-net.co.jp/

KMLメールニュースVOL.33をお送り致します。
お忙しい事とは存じますが御一読いただきまして、先生方の
一助として頂ければ幸いです。

☆☆ トピックス ☆☆

- 【1】 昆虫アレルゲンの環境改善ポイント
- 【2】 感染症トピックス：食中毒にご注意を
- 【3】 検査項目情報：D-Dダイマー
- 【4】 検査結果照会システム WEBRIS について
- 【5】 KMLインフォメーション 7月～8月分のお知らせ

1 昆虫アレルゲンの環境改善ポイント

晩夏から秋にかけての鼻炎、喘息の原因として、ブタクサ・ヨモギ・カナムグラなどの雑草花粉に比べ、ガ・ユスリカ・ゴキブリなどの昆虫抗原はあまり知られていません。アレルギー性鼻炎では、ダニ・スギ・カモガヤなどの主要アレルゲンに次いで感作率が高く、鼻炎患者様にガの抗原を用いた鼻誘発試験では、RASTクラスが高くなると共に鼻誘発試験陽性率が上昇し、クラス3以上の患者様の61.5%が鼻誘発試験陽性になったとの報告があります。

屋外の昆虫アレルゲンを減らすことは困難ですが、屋内では発生源の整備・掃除が重要となります。昆虫アレルゲンは微小な粒子に破碎されてカーテンなどに付着し長時間にわたって滞留しますので、これらの洗濯等も有効な対策となります。また残飯などを残さないようにすることもゴキブリの発生を防ぐための対策の一つとなります。

一般的にはダニやペットと同様に掃除が一番の環境改善となりますので、患者様のご指導に下記の一覧をお役立て頂ければ幸いです。

屋内に発生する昆虫 ゴキブリ・ガの掃除・回避ポイント

● ゴキブリ ●

【特徴】

- ・家住性のゴキブリ類は水を好み夜間に活動し群居性がある

【アレルギーの原因】

- ・糞や虫体の死骸

【発生源・生息場所】

- ・水廻り（台所、お風呂、洗面所など）
- ・温度が保たれる機器類付近や内部（冷蔵庫、OA機器など）
- ・ゴミ箱や食品など餌のあるところ

【掃除・回避ポイント】

- ・台所などの水廻りにある家電、引出しや戸棚の裏側や隙間
- ・食品保管庫
- ・生ごみなどゴミ箱付近（蓋付にし進入を防ぐ）
- ・植木鉢の下（屋内に持ち込まない）

● ガ（メイガ・イガ） ●

【特徴】

- ・屋内で発生するガの幼虫は光を嫌って暗い場所で生活し、成虫は夜行性のため、発生に気付かないこともある

- 【アレルギーの原因】
- ・幼虫の糞
 - ・翅を覆う鱗粉（りんぷん）

- 【発生源・生息場所】
- ・メイガ（幼虫）：乾燥食品、戸棚や食品保管庫
 - ・イガ（幼虫）：ウール製品（衣類・布団）

成虫は、幼虫の発生場所付近の暗い所に生息し、夜間は家の中をかなり飛び回る

- 【掃除・回避ポイント】
- ・幼虫の糞：発生した食品の廃棄と発生付近の掃除
長期間保管しない、密閉性の高い保存容器に入れる
 - ・成虫の鱗粉：戸棚や食品保管庫内やクローゼットや押入れの中の掃除
蛍光灯の笠やカバー
カーテンは定期的に洗濯する

屋外に発生する昆虫 ガ・ユスリカの掃除・回避ポイント

● ユスリカ ●

- 【特徴】
- ・蚊に似ているが吸血はせず、光（灯り）に誘引される

- 【アレルギーの原因】
- ・死骸（死骸が細かい塵となり舞い上がり吸入）

- 【発生源・生息場所】
- ・河川や湖沼、用水路、側溝など水域

- 【掃除・回避ポイント】
- ・灯りに誘引され屋内へ入るため窓やドアには網戸などを取り付け進入を防ぐ
 - ・灯りに誘引されたガ・ユスリカが死骸となって窓付近にたまるので窓付近を掃除する
 - ・屋内に入ったガの鱗粉、ユスリカの死骸は室内塵中に混入するため室内を掃除する

● ガ ●

- 【特徴】
- ・光（灯り）に誘引される

- 【アレルギーの原因】
- ・翅を覆う鱗粉

- 【発生源・生息場所】
- ・樹木などの植物に発生・生息し、夜間は広範囲を飛び回ることが多く、街灯や家屋の灯りに飛来する

- 【掃除・回避ポイント】
- ユスリカと同様

指導：財団法人 日本環境衛生センター 武藤敦彦
提供：ファディア株式会社

2 感染症トピックス：食中毒にご注意を

夏は食中毒が多発する季節です。原因となる菌としてサルモネラ・赤痢・ビブリオ・病原大腸菌・カンピロバクターなど様々あります。今回は、カンピロバクターについてご紹介いたします。

【カンピロバクター感染症】
カンピロバクター感染症は、カンピロバクター属の細菌によって起こされる感染症です。カンピロバクター属の細菌を摂取してから、2-5日後に下痢、腹痛、発熱といったカンピロバクター感染症を起します。下痢は血液を混じることがあり、嘔気・嘔吐が見られる場合もあります。症状は1週間程度持続します。しかし、中には、不顕性感染と言って、感染しても何の症状もない人もいます。また、免疫が弱まった人では、敗血症を起こし、命にかかわるような重症になってしまう場合もあります。

カンピロバクター感染症は、特別な治療なしに回復することが多い
 患者は、下痢で失う水分を十分に補っていく必要があります。
 カンピロバクター感染症は、2-5日で治ってしまう場合が多いので
 が、治るまでに10日間もかかるような場合もあります。発症が起こ
 るに、カンピロバクター感染症の後、長期にわたる続発症が起こ
 ることがあります。カンピロバクター感染症の後、関節炎になる人
 がいます。下痢症状の数週間後に始まるまれな神経の病気となる人
 もいます。

カンピロバクター感染症の大部分は、生の鶏肉を扱うこと、あるいは
 生や加熱が不十分な鶏肉を食べることと関係しています。
 500個未満といったたいへん少量のカンピロバクター属の細菌でも、
 人に病気を起こすことができます。
 ニワトリがカンピロバクター属の細菌に感染していても何の症状も
 ありません。汚染した糞あるいは汚染した水のみ場の水との接触で
 鳥から鳥へとカンピロバクター属の細菌は簡単に広がっていきます。
 感染した鳥を処分されたとき、腸から肉へとカンピロバ
 クター属の細菌が移ります。
 カンピロバクター属の細菌は、肝臓のようなトリの臓物にも付着
 しています。
 野鳥や動物の糞との接触により、カンピロバクター属の
 細菌は、河川や泉の水が汚染していることがあります。
 カンピロバクター感染症は、発展途上国ではよりありふれた病
 気であり、発展途上国への旅行もカンピロバクター感染症になる機会
 といえます。

【病原体】

カンピロバクター (Campylobacter) のカンピロは「曲がった」と
 いう意味のギリシャ語に由来します。「カンピロバクター」では、
 「曲がった細菌」ということになります。

カンピロバクター属の細菌は、らせん形をした細菌で、人および
 動物に感染し病気を起こします。人のカンピロバクター感染症の内
 の大部分は、一つの種であるCampylobacter jejuni によって起こ
 されます。
 鳥は病気になることなく、その腸内にCampylobacter jejuni を
 もっていることがあります。

カンピロバクター属の細菌は、乾燥に弱く、通常の大気の酸素濃度
 のもとではだんだんと死滅していきます。微好気といって希薄な
 酸素濃度のもとで増殖する性質を持っています。

【予防】

- ・鶏肉は、徹底的に加熱しましょう。中の肉がピンク色でなくなり、
 肉汁が出なくなるまで加熱しましょう。
- ・動物の生の肉を扱う前後には石鹸を使って手をよく洗いましょう。
 また、動物の生の肉を扱った後は、すぐにまな板や包丁等を洗剤
 等を使ってよく洗いましょう。洗うことなしに続けて他の食物を
 調理してはいけません。肉用のまな板は別にした方がよいです。
- ・生の牛乳や生水を飲むことは控えましょう。
- ・下痢症状のある人は、トイレの後の手洗いを石鹸を用いてしっかり
 しましょう。
- ・動物やペットの糞を扱った後は、手洗いを石鹸を用いてしっかり
 しましょう。
- ・牛レバーはよく加熱して食べましょう。

コード	検査項目	保険点数	所要日数	検査容器
078	赤痢 サルモネラ ビブリオ	140点	3~5日	便培養用容器 容器番号: 33
089	赤痢 サルモネラ ビブリオ 病原性大腸菌	180点	3~5日	便培養用容器 容器番号: 33
018	カンピロバクター	80点加算(注)	3~5日	便培養用容器 容器番号: 33

(注) 病原性大腸菌を併せて行った場合は算定不可

3 検査項目情報：D-Dダイマー

Dダイマーは、安定化フィブリンが線溶される二次線溶により産生される線溶系の分子マーカーであり、生体内の凝固・線溶状態の把握や播種性血管内凝固症候群（DIC）、出血傾向、血栓症の診断などに役立ちます。

凝固・線溶状態の異常を鋭敏に反映するため、Dダイマーを測定することによりDIC診断基準の補助的検査として有用です。また、Dダイマーの測定は、深部静脈血栓症（DVT）において、Dダイマーが陰性であればDVTを否定できるため、除外診断に有用です。

検査項目	: D-Dダイマー
検体量	: 血漿0.5mL (3.13%クエン酸加血漿)
保険点数	: 150点 (血液学的検査)
所用日数	: 2~4日
基準値	: 0.72 μ g/mL以下

※ご注意
血液凝固検査用容器は、血液1.8mLを正確に入れ、全量を2.0mLにして良く転倒混和して下さい。

D-Dダイマーについての詳しい資料はこちらをご参照ください
<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/D-D.pdf>

4 検査結果照会システム WEBRIS について

ネットワークインフラの急激な進化に伴い、時代は更なる電子化への対応が求められています。医療現場のニーズにお応えするため、この度、弊社では操作性が良く、機密性の高いシステムを開発しました。
Web Result Inquiry Systemの頭文字をとり、WEBRIS（ウェブリス）と名付けました。

WEBRISはインターネットを利用した検査結果照会システムです。インターネットに接続できる環境から、専用セキュリティーキーでアクセスする事により時間と場所を選ばずご利用できます。

<<スピーディに検査結果をご提供>>
インターネットでスピーディに検査結果の閲覧が可能です。
細菌検査・病理組織・細胞診の結果も閲覧できます。

<<厳重なセキュリティ>>
SSL-VPNゲートウェイによる高度なセキュリティ管理を実現し、安全にご利用頂けます。

<<検査結果のダウンロード>>
電子カルテ・健診システム用の検査結果データファイルをオンラインでダウンロード可能です。
※弊社対応のシステムであるか事前に確認が必要となります。

<<検査結果のプリントアウト>>
検査結果を簡易報告書として印刷できます。

【ご利用にあたって】

■ご契約にあたって
WEBRISへのご契約にあたっては、利用契約に同意いただき、契約書を取り交わさせていただきます。
利用料金などについては、弊社担当営業までお問い合わせください。

■インターネット接続環境
お客様が所有しているパソコンへのインターネット接続については、お客様でご用意いただきます。

■接続回線
ブロードバンド回線（ADSL・光）でのご利用を推奨いたします。
※回線状況により表示速度は異なります。
※お客様のパソコン環境によっては正常に動作しない場合があります。

先生方に喜んで頂けるサービスであると確信しております。
詳細については弊社担当営業までお気軽にお問い合わせください。

WEBRISの画面イメージ・推奨動作環境・セキュリティー解説図などは下記アドレスをご参照ください。
<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/webris.pdf>

